

第九十五条修正案

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/658

第九十五條 修正案 梅謙次郎提出

理由 法律行為ノ善良ノ風俗ノ七字ヲ削除ス

ヲ得サルコトハ羅馬法以來 (X. 116 pr. 2. v. de divinis regulis juris antiquis § 117) 法學者

ノ常ニ説ク所ニシテ澳國民法ヲ除ク外
國ノ立法例モ亦此規定ヲ採用セリ是レ蓋
シ我法典ノ之ヲ取ル所以ニシテ又原案
ニ之ヲ存シタル所以ナルハシ然リト雖モ
本質ノ見ル所ニ據レハ是レ頗ル法律ト道
徳トヲ混同シタル規定ニシテ闡明ノ今日
ニ在リテハ到底存スルコトヲ得サルモノ
ナリ蓋シ風俗ヲ害スヘキ行為ハ多クハ公

ノ秩序ヲ害スヘキモノナルヲ以テ其公ノ
秩序ニ及スルノ理由ニ依リ之ヲ無効トス
ルハ則チ可ナリト雖モ公ノ秩序又ハ善良
ノ風俗ニ及スル行為ト云ハハ必ス後既ハ
公ノ秩序ニ關係ナキ行為ニシテ而モ道德
上善良ナル風俗ニ合致シタル行為ト視難
キモノヲ作スヘキハ勿論ナリ若シ然ラハ
法律ハ莫クモ社會ノ秩序團結ノ安寧ニ關係
ナキ行為ニマテ干渉スルモノト謂ハサル
コトヲ得ス是レ豈ニ今時ノ法律思想ニ及
スルモノニ非スレテ何ソヤ蓋シ羅馬ニ於
テハ法律ノ發達未タ完カラス動モスレハ
法律ト道德トノ境域ヲ認識シタルノ跡ナ

斗ニ非ス故ニ風俗ヲ害スルノ行爲ハ又同
時ニ法律ニ背クノ行爲ナリト誤信シテ右
ノ規定ヲ設ケタルヲ後世ノ學者立法者共
ニ首纂シテ皆之ヲ必要ナリトスルニ至リ
タルヤ亦知ルハラス然レトモ羅馬ニ
於テ風俗ナル文字カ(Mores)同時ニ慣習法ノ
意味ヲ有セシコトハ人ノ知ル所ナリ以テ
其法律ト道德トヲ判明ニ區別セサリシヲ
見ルハシ今昔十九世紀ノ終末ニ於テ新ニ
我邦ノ法典ヲ編纂スルニ方リ仍ホ此舊套
ヲ墨守スルハ本質ノ甚ク遠域トスル所ナ
ルヲ以テ茲ニ此修正案ヲ提出シタリ